

市民活動同士の橋渡しのために

千歳市 NPO法人千歳ひと・魅力まちづくりネットワーク

情報誌「千歳市民情報文化ひろば」(A版 8ページ) 12月号に向けての編集会議、それぞれ情報を持ち寄ってきたメンバー5人が話し合っている。

「次号の8ページ、『ここのこ』のコーナーは何にしましょうか？」

このコーナーは千歳市内で、興味が引かれる場所を写真で切り取り、紹介する企画だ。その意図は、先月号を見てすぐに分かった。巨大なボーリングのピンが、田舎道の脇に横たわっている写真が誌面に掲載されており、その横に説明がある。ピンはボーリング場の宣伝に使われていたものだろうが、なぜこんな場所に？……と、不思議に思う写真で、その説明には、「ピンには『祝梅温泉』って書いてあります。なぜ、ボーリングのピンだったのか？ 一度温泉に入りに行って聞いてみたいと思います」とある。

メンバー同士で、テンポ良く編集会議が続けられる。

「次号の『ここのこ』の写真は、もう撮影済みです」

「何ですか？」

「千歳市民文化センターの名称が変わって、『北ガス文化ホール』となった件です」

「確かに、あれは面白いですよ。建物に大きく『北ガス』ってなってますから。あれじ

ゃ、市民の文化ホールっていう感じじゃなくなっただけで」

「あの命名権、年間100万円ですって。高いのか、安いのか」

「では、次号の『ここのこ』は、これでいきますね」

「次は……」

こうした編集会議が月4回行われており、編集に関わる主要メンバーは10人ほど。メンバーによって都合のつく時間が違うため、午前中と夜の2回ずつ会議を行い、4回目で印刷を行うといったスケジュールになっている。企画、構成、取材、執筆、印刷、誌面に使われているイラストもメンバーが描き、配布まですべてメンバーが行っている。



「ひと・まちネット」の編集会議、月4回行われており、メンバーがそれぞれ情報を持ち寄る

■ 自分たちの町を、自分たちで

情報誌の発行団体は、「NPO法人 千歳ひと・魅力まちづくりネットワーク」(以下、「ひと・まちネット」)。千歳市の市民活動を支援し、市民活動同士の橋渡しをしようという主旨で、2002年(平成14年)に設立され、代表理事は三上禮子さん、一般理事10人でスタートした。活動目的を「千歳」の「ひと」や「魅力」を紹介して、「まちづくり」と「ネットワーク」作りを目指すとしており、その言葉を並べて、この団体名としている。

代表の三上さんは、「行政、市民が分け隔てなく、自分たちの町は自分たちで作らなければ、という意気込みでこの会を設立しました」と説明する。

発足当初は、市民団体が開くイベントのチケットの販売を請け負ったり、チケット情報をまとめたチラシを発行したりしていたが、「それだけでは物足りない。各団体の事業内容だけでなく、それぞれの熱意も伝えたい」と、2005年5月から、市民団体の催しなどを紹介する情報誌「情報ひろば」の発行を始めたという。最初は4ページの情報紙だったが、第4号からは8ページと情報量も増やした。

■ 情報誌を月1回発行、10年間継続

現在、「ひと・まちネット」の主な活動は、情報誌の毎月1回発行と、市民と行政の協働事業であるバスツアー「まちめぐりガイド」(年5回)の企画運営である。さらに、この事業報告をまとめ、ツアーの写真やレポートを市役所ホールに展示すること。そのほか、市内で開催される「科学の祭典」などのイベントにも積極的に参加している。

情報誌は、市民団体の紹介やイベント情報だけでなく、専門家の特色あるコラムや、メンバーの記事なども掲載されており、興味を引かれる内容となっている。専門家は、毎回無償で協力しており、千歳市埋蔵文化財センター所長や、サケのふるさと館の学芸員、千歳科学技術大学教授などが執筆している。メンバーが書く記事は、飲食店の紹介や、特集記事など、企画から取材、執筆までそれぞれが担当して千歳の魅力を伝えている。

毎月1000部を発行、市内の公共施設などにメンバーらが直接配布している。こうした方法で、2005年から情報誌を発行、2014年12月で116号となっている。

情報誌の最終ページには企業広告が入って



2005年から月1回発行の情報誌「千歳市民情報文化ひろば」、2014年12月で116号となっている

おり、この収入が年間6万円。創刊当時から広告主も料金も変わっていないとのこと。この広告料と、会員54人の会費(年間、一般会員3000円、ネットワーク会員1000円)だけで、経費を捻出している。

また、千歳市との協働事業である「まちめぐりガイド」は、「千歳の魅力再発見」というテーマで、「千歳の昭和の歴史を探る」

や、「千歳の川をめぐる」などのバスツアーを企画・運営、報告書作成も行う。市からの事業費年間 12 万円が、年間 5 回分のツアーの下見と人件費、報酬、事業報告の作成費などに使われている。

2014 年 9 月 25 日に実施されたバスツアーは、「縄文時代の生活と社会を考える～チョット味わう食の体験と、キウス周堤墓を訪ねる～」とのタイトル。市民 21 人、スタッフ 7 人、市役所職員 1 人の合計 29 人が参加した。埋蔵文化財センターや、美々貝塚、トブシナイ 2 遺跡の発掘現場、キウス周堤墓（国指定史跡）を見学して、千歳の縄文の歴史を学んでいる。

そのツアーの様子は、「千歳市民情報文化ひろば」にも特集として掲載されている。その記事によれば、「縄文時代の生活体験」として、一行は埋蔵文化財センターで縄文人が食べていたと推測されるシジミを尖底土器で煮たり、縄文人が使っていた黒曜石で鶏の肉を切ってみたりと、なかなか面白い。ただ縄文遺跡を見学するだけでなく、ちょっとした体験メニューもツアーに取り入れるなど、企画に工夫も凝らされている。

「シジミと塩しか汁には入っていないが、コクのあるシジミのうま味が凝縮。縄文人はグルメな食事をしていたかも」との参加者の感想も記事にあった。

三上さんは、こうした活動について、「これまで、千歳の魅力は、さまざま特徴が定まらないと思っていましたが、産業や文化、歴史を掘り下げると、それらの魅力が融合して千歳のまちになっているように思えるのです」と語っている。



縄文時代の生活を体験するため、尖底土器で作ったしじみ汁を食べている参加者（2014年9月25日実施の「まちめぐりガイドバス」）

■ 豊かで幸せな町を作るために

代表の三上さんは、書道家としても知られており、道展の運営委員や審査員、女流書家グループの事務局長なども務めている人物。常に「自分が生きる書」を生み出すよう向き合っているという。

その三上さんが、市民活動を始めたのは 1990 年代はじめごろから。

全国的に市民協働のまちづくりが模索され始めたそのころ、千歳市でもその基本政策を作る委員会が立ち上がった。当時母親仲間のサークル活動に励んでいた三上さんは、市民の代表として市委員会のメンバーに加わった。

1999 年（平成 11 年）に、地域の生涯学習における全国フォーラムが千歳市で開催され、三上さんはその事務局長としてフォーラムに携わった。全国の進んだ組織を目の当たりにした三上さんは、「行政に頼らず、自分たちが 100%できる市民のための組織を作るべきだ」と痛感したという。

さらに、市民による祭り「ふるさとポケット」の事務局を 10 年間担当したことも大きい。この祭りは、市民団体や各県人会が、活

動紹介の展示ブースや郷土料理コーナーなどを並べるといったやり方を採っているため、開催にあたって県人会やサークルなどの活動を調べ、協力と参加を呼びかけなければならない。そうした呼びかけを行うことで、「それまで接触のなかった市民や活動団体が、つながって、協力の輪も広がっていったのです」という。

そして、毎年規模が大きくなっていく「ふるさとポケット」に自信を深め、2002年(平成14年)に、市民団体同士のつながりをより深めるために、NPO法人「ひと・まちネット」を設立するに至った。

「まちづくりの目標は、そこに住む人が、幸せであり続けることでしょう。人の魅力に溢れ、豊かで幸せな町を作ることこそが、まちづくりなのだと思えます」



「千歳市民情報文化ひろば」を手にする代表理事の三上さん

三上さんは、そう熱く語る。

■ 仲間や周りの力が、原動力

編集会議が終わったあと、「ひと・まちネット」に対する思いを、参加メンバーに聞いた。会が発足して12年、情報誌を発行して10年、それぞれが真面目に取り組んでいるだけ

に、毎月1回の発行は相当に大変なはず。その辺りについて尋ねてみた。

「これまで活動を続けてこられた動機、熱意は、どこからきているのですか？」

会創立からのメンバーでもある早川民子さんは、少し考えてから答えてくれた。

「千歳には市民活動の団体が多くあります。それを市民活動によって応援したいという気持ちで、当初から、今もずっとあって、一緒にやりたいという仲間もいるから、ですかね」

前田はるみさんは、「やはり、仲間の力や周りの力、情報をくれる人がいて……こうした、人とのつながりが、私や会の財産となっていますしね」と話してくれた。

11月号の編集後記には、こう綴られている。

「今年最後のガイドバス事業が23日に終わり、ホッと一息…という間もなく、情報ひろばの印刷、科学の祭典の準備…と、怒濤のようにいろいろなことが押し寄せてくる。みんな協力して頑張ればなんとかなるさあ〜と…やるっきゃない!!」

■ 連絡先

〒066-0056
千歳市白樺3丁目9-3

NPO法人
千歳ひと・魅力まちづくりネットワーク
代表理事 三上 禮子(みかみ れいこ)

TEL/FAX 0123-28-1024
URL : http://park.geocities.jp/chitose_hirobanews/